

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 1	市民生活推進課	総務調整グループ

事務事業名		二孝女物語継承事業						新規・継続	継続																																															
総合計画 との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-9-18	歴史・文化遺産の活用による観光産業の発展						ソフト・ハード																																															
	関連施策名 (施策コード)	V-15-35	歴史・文化遺産の保存、継承																																																					
事業 内容 (経緯)	二孝女物語を後世に伝えていく継承事業です。二孝女ゆかりの都市である常陸太田市と平成27年10月、姉妹都市提携の締結を行いました。 二孝女物語の継承事業として各地域で野津町出身の講談師 一龍斎貞弥さんによる口演会を実施しました。本年度も臼杵地域を中心に5カ所「佐志生地区区長会・福祉推進委員、亀城学園教室生、福良ヶ丘小学校、上北小学校、文化連盟講座（野津地域）」で行いました。																																																							
基本 項目	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">行動指標</th> <th colspan="2">指標名</th> <th rowspan="2">説明・算式・引用</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">実績の推移</th> <th rowspan="2">H29 実績値</th> <th rowspan="2">H31 計画値</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>口演会の開催回数</td> <td>一龍斎貞弥さんの口演回数</td> <td>回</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							行動指標	指標名		説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	H26	H27	H28	①	口演会の開催回数	一龍斎貞弥さんの口演回数	回	3	3	5	5	6	②									③									④								
行動指標	指標名		説明・算式・引用	単位	実績の推移				H29 実績値	H31 計画値																																														
	H26	H27			H28																																																			
①	口演会の開催回数	一龍斎貞弥さんの口演回数	回	3	3	5	5	6																																																
②																																																								
③																																																								
④																																																								
事業 対象	来場者			成果	一龍斎貞弥さんの新作講談「二孝女物語」の口演会を実施することで二孝女の親子愛や人を思いやる心「日本人の心」を市内に広めることができました。																																																			
成果指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標名</th> <th rowspan="2">説明・算式・引用</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">実績の推移</th> <th rowspan="2">H29 実績値</th> <th rowspan="2">H31 計画値</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>口演会来場者数</td> <td>人</td> <td>615</td> <td>311</td> <td>248</td> <td>304</td> <td>350</td> </tr> </tbody> </table>							指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	H26	H27	H28	来場者数	口演会来場者数	人	615	311	248	304	350																														
指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値																																																	
			H26	H27	H28																																																			
来場者数	口演会来場者数	人	615	311	248	304	350																																																	

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	1,839						1,839

評価の視点	評価	判断基準	理由	
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	二孝女の話を知っていただくことにより、忘れかけている日本人の心を継承することができます。	
	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない		
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	講談「二孝女物語」を野津町出身の一龍斎貞弥さんに口演いただくことにより物語が広く知られるようになりました。親子愛や人を思いやる心「日本人の心」を継承する文化を全国に発信しています。	
	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
	効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか	茨城、大分の両県では道徳の教材として採用されるようになりました。口演だけでなく、二孝女物語の継承と普及を推進している民間団体「二孝女顕彰会」と協力し、二孝女物語を後世に継承していきます。	
	B	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	二孝女物語を多くの方に知っていただくため地域に出向き口演会を実施していますが、20歳代～50歳代の方の参加が少ないよう思えます。今後、その年代の方が参加していただけるような講演会開催の工夫を検討する必要があります。			
前年度の改善案	民間レベルの交流会は、少人数で毎年実施することを臼杵市二孝女顕彰会と確認しています。また、両市の行政レベルの交流会は3～5年周期で実施する方向で検討しています。 口演会については、地域振興協議会の担当課等と連携し、講談口演会を実施していきます。			
具体的な改善案	「二孝女物語」の口演については、引き続き地域振興協議会の担当課等と連携し臼杵地域での開催を中心に行います。また、野津地域の開催については多くの方に聞いていただける方法を検討し開催します。二孝女顕彰会については、早急に体制を整え常陸太田市の顕彰会との積極的な交流を行えるように支援します。			

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する（重点継続）	理由	今後も引き続き、現在の日本に必要な「人を思いやる気持ち」や「人をもてなす心」を全国に広めていく必要があります。
------	------------------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 2	市民生活推進課	総務調整
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名	吉四六まつり補助事業						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	IV-9-17	観光資源の活用・創出による地域活性化					
事業内容(経緯)	関連施策名(施策コード)	V-15-34	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承					
事業内容(経緯)	4月6日に近い日曜日に開催する吉四六まつりに対する補助金。地元の伝統芸能継承を目的のひとつとし、寸劇や神楽、獅子舞などがステージで披露されます。野津町商工会を中心とした実行委員会が主催する地域住民主導によるイベントです。							
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29実績値 H31計画値
	①	全演目に対する伝統芸能の演目の割合	伝統芸能の演目／全演目×100	%	40	53	53	53 50
	②	市職員の動員数	当日の職員動員数	人	21	21	21	21 20
	③							
	④							
事業対象	来場者数	成果	地域の活性化や伝統芸能の継承及び発展が図られています。また、桜の時期に開催することで、花見の名所としての吉四六ランドの周知の効果もあります。					
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29実績値 H31計画値	
	来場者数	吉四六まつりイベント来場者数	人	12,000	10,000	12,000	12,000 17,000	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	5,154						5,154

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	地域を代表する春の一大イベントとして定着しています。地元の伝統芸能を積極的に取り入れ、地域文化の掘り起こしや地域活性化に繋がっています。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	野津町商工会を中心とした実行委員会が主催し、地元の产品や地元団体の出店もあり、地域によるイベントとなっています。また、地域に残る伝統芸能の発表の場となることで、その継承に寄与しています。29年度は、天候不良（暴雨）と桜の開花遅れにも関わらず28年度と同等の入場者となりました。	
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	実行委員会による自主的な取り組みが進められており、市職員の協力については、内容等吟味し必要最小限にとどめています。	
事業の問題・課題	屋外イベントであるため、天候によって内容・来場者数が大きく影響を受けます。運動施設への影響を考慮し本年度はゲートボール場にメイン会場を移しました。地域の事業所の減少などで協賛金収入を維持することが厳しくなっていますが、地域に愛される一大イベントとして、継続的に実施するためには、イベント内容や運営等の検討が必要です。		
前年度の改善案	事業経費の増額が見込めない中、事業規模を縮小することなく、継続的に実施できるよう内容や経費の見直しや工夫を図るよう努めます。会場への影響を考慮しつつ、吉四六ランドの桜をまつりに活かすことができるよう、ステージの場所変更を検討しました。また、実行委員会の主体的な取り組みを維持するため、市職員の動員は必要最小限とします。		
具体的な改善案	メイン会場を昨年までの多目的グラウンドからゲートボール場へ移すことでのグラウンドの芝への影響はなくなりました。来場者がまた来たくなるように思えるよう、気持ちのこもった対応を指導します。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	野津地域で一番の集客イベントとして定着しています。本年度、メインステージ移転後、初のイベントを実施しました。特に問題もなく、密度の濃い催しとなりました。今後も実施後の反省点等について検討し、より良いイベントとなるよう協力していきます。
------	---------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 3	市民生活推進課	総務調整

事務事業名	田園都市空間開発事業（ニュータウン小郡の丘住宅団地）						新規・継続	継続		
総合計画との関連	主要施策名（施策コード）	VI-18-43	快適な住環境の確保						ソフト・ハード	ソフト
	関連施策名（施策コード）	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	
基本項目	事業内容（経緯）	市外への人口流出の抑制・市外からの人口流入を図る過疎対策として、55区画の住宅団地を造成し、団地の土地貸付及び分譲販売を行うことにより、定住を促進し地域の活性化を図ります。平成29年度までの契約済み区画（53区画）+手続き中1件。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
		① 定住人口	小郡の丘の住人	人	138	152	164	159	220	
		② 団地契約数	契約件数（55区画のうち）	件	48	50	52	54	55	
		③	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	
		④	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	
	事業対象	臼杵市定住希望者	成果	今年度、新規契約が1件、契約手続き中が1件。残り1区画となり、定住人口の増加と地域の活性化に繋がっています。						
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
		H31年度計画値に対する定住人口増加比率	各年度の定住人口数÷220人	%	63	69	73	72	100	

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	2,481						2,481

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	宅地購入希望者ののみのニーズとなります。地域活性化・定住促進が図られ、市内の人口流出抑制・市外からの人口流入が見込まれます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない	自然を活かした団地で景観が良く、低価格での分譲が可能となっています。法面が多く未契約となっていた区画についても、他の区画に比べ時間はかかりましたが販売につながっており、効果が出ています。	
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない	市が販売している住宅団地ということもあり、維持・管理について、行政が負担する部分が大きくなっていました。近年、地区（自治会）が主体となって運営していく意識が芽生えており、施設内にかかる費用や負担が軽減されています。	
事業の問題・課題	残りの未契約区画（1区画）は、区画内に法面を多く含んでおり、その区画に対する分譲方法が課題となっています。		
前年度の改善案	法面の多い残区画について、居住者の住みやすさを考慮し、周辺を整備します。また、法面の面積や割合に応じての購入金額の見直しについては、今年度、同じように法面の多い区画の新規契約があったことを踏まえ、軽減措置の条件を1ターンのみに絞る等、すでに契約済の方に対し、不満を抱かせることのないよう慎重に検討していきます。		
具体的な改善案	引き続き、残りの法面の多い残区画（1区画）について、居住者の住みやすさを考慮し、周辺を整備します。また、法面の面積や割合に応じての購入金額の見直しについては、今年度、同じように法面の多い区画の新規契約があったことを踏まえ、軽減措置の条件を1ターンのみに絞る等、すでに契約済の方に対し、不満を抱かせることのないよう慎重に検討していきます。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由
		平成29年度は残り3区画の内、問い合わせのあった2区画について、問い合わせ相手と契約及び手続きに繋がりました。残りの1区画についても引き続き広報活動を進めていくとともに、分譲方法などを検討し、契約に繋げていきます。

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 4	市民生活推進課	総務調整

事務事業名	農村民泊（グリーンツーリズム）事業						新規・継続	継続	
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	II-5-11	地域内交流・地域間連携						ソフト・ハード
	関連施策名 (施策コード)	IV-9-17	観光資源の活用・創出による地域活性化						ソフト
事業内容 (経緯)	グリーンツーリズムは、農村民泊を通して自然と文化、人々との交流をありのままの姿で楽しむ余暇形態。市内の農村民泊実施団体やそれを補佐する団体が活動しているため、行政は学校関係の受け入れ時の対応や農泊体験の誘致等PRなどの後方支援をはじめとして、農村民泊実施団体のサポート等を行っています。 今年度は、新たに任命した地域おこし協力隊（ツーリズム担当）とも連携しながら、県外中学校や市内小学校の農泊体験、APUと連携した留学生受入れ対応、移住希望者向けツアーやうすき100年弁当などの活動を含め、事業全般のサポートを行いました。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	①	受入家庭増に向けた誘致活動による受入家庭登録軒数	農泊許可取得受入家庭数（吉四六さん村GT+臼杵市GT）	軒	45	53	56	47	61
	②	外国人来訪者の割合	農村民泊にて宿泊した来訪者の内、外国人の割合	%	36	37	44	59	60
	③	誘致等PR活動実施団体数	誘致PR実施済数（学校+旅行社）	団体	6	9	5	8	15
	④								
	事業対象	農泊家庭、来訪者		成果	昨年度の途中から、特定の旅行社から外国人の送客があり、来訪者及び外国人の割合増につながりました。市内外の教育旅行も引き続き行いながら、各団体に応じた活動内容を検討するなど、活動の基盤づくりも行いました。				
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	グリーンツーリズム延べ来訪者数	農村民泊にて宿泊した来訪者の延べ泊数	泊数	1,730	1,943	984	1,478	2,100	

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	8,432						8,432

評価の視点	評価	判断基準		理由		
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		高齢化や後継者不足等により農村地域の活力が失われる中で、グリーンツーリズム事業は、農村の価値を見出し、高め、関わる人を元気にしていく事業であるため、地域の活性化につながると考えられます。		
有効性	A	A：適応している B：一部適応していない C：適応していない				
	B	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		農家だけでなく、農村地域にある一般家庭も行うG T事業では、人との交流を通じた生きがい、また、息の長い生業になっています。子どもを対象とした、生きる力を育む教育的な効果に加え、外国人旅行者が日本の身近な生活を体験・交流する場として、今後も非常に有効なものとなっています。		
効率性	A	A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない		行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか		
	B	A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない		高齢化の進む農泊家庭の負担を軽減し、地域資源を活用した体験メニューを確立するため、うすきツーリズム活性化協議会に補助金を支出、また、今年度より地域おこし協力隊を1名任用しています。ただし、来訪者数の増加など直接的な効果が表れるものばかりではないため、効率性が必ずしも高いとは言えません。		
事業の問題・課題	農泊家庭の負担軽減及び大人（一般人、外国人、各団体含）仕様の受入体制を確立するために、受入家庭の意識改革や農泊団体以外での地域体験のメニュー開発等を行います。また、うすきツーリズム活性化協議会事務局の人材及び地域おこし協力隊を活用し、魅力ある滞在プランの商品化を図りながら、関係団体との連携を深め、着地型観光の1つとして農泊を定着させます。					
前年度の改善案	農泊家庭の負担軽減及び大人（一般人、外国人、企業研修含）仕様の受入体制を確立するために、引き続き受入家庭の意識改革や農泊団体以外での地域体験のメニュー開発等を行います。また臼杵市全体での滞在プランの商品化による着地型観光を推進するため、本年度導入する地域おこし協力隊を有効に活用していきます。					
具体的な改善案	農村民泊事業を継続するための体制づくりとして、農泊家庭の負担軽減（受け入れ体制確立や受入家庭増）や団体・受入家庭の意識改革を引き続き行います。また、地域体験メニューの開発等をする中で、うすきツーリズム活性化協議会及び地域おこし協力隊（ツーリズム担当）を通じて他団体との連携を深めます。					

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する（重点継続）	理由	一般人、インバウンド等の受入体制を確立するため、引き続きうすきツーリズム活性化協議会事務局人材や地域おこし協力隊を活用し、地域体験メニューの開発等を行います。今後、臼杵全体での着地型観光に結び付くよう、魅力ある滞在プランを具体的に商品化する必要があります。
------	------------------------	----	--

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 5	市民生活推進課	総務調整グループ
新規・継続	新規	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名		野津庁舎整備基本構想策定事業							
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VI-18-41	まちづくりの計画的推進						
	関連施策名 (施策コード)	III-8-16	公共施設の耐震化・防災施設整備						
基本項目	事業内容 (経緯)	老朽化し危険性の高い野津庁舎旧館を取り壊し、新館を中心にコンパクトに整備するにあたり、設計の前提条件等を基本構想としてまとめました。市民意向調査を実施したため、年度内に終了できず事業繰越し6月末に完了しました。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	①	委託先との打合せ回数	打合せ回数	回	-	-	-	5	-
	②	かたろう会(野津まちづくり推進協議会)の開催回数	開催回数	回	1	2	4	3	-
	③								
	④								
	事業対象	基本構想策定	成果	市民の意見を取り入れるために、市民意向調査を実施しました。そのため、平成29年6月末に委託期限を延長し完了しました。					
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		基本構想の認知度・関心度	市民意向調査の回答数／発送数×100	%	-	-	-	53	-

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	8,569						8,569

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	基本構想の策定に際し、市民意向調査等を行い市民の意見をその後の設計等に結びつけていくことや、市の整備に対する考え方を市民に知っていただきました。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	短期間で、市民の意見、行政内部の意見など、市の整備に対する考え方をまとめることができました。	
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	基本構想策定を外部委託することにより、専門家の観点から構想を策定することができます。しかし、委託をおこなわない部分もあり、互いの進行状況等の確認を密にしていかないとなりませんでした。	
事業の問題・課題	市民意向調査の時期について、実施時期が遅れてしまい、当初年度内終了見込みの委託が事業繰越しとなってしまいました。基本構想以降の業務スケジュールが予定より遅くなりました。		
前年度の改善案	-		
具体的な改善案	-		

課長評価	事業目的達成による完了・完了予定(完了)	理由	平成29年6月末に事業完了しました。現在は設計を行っており、平成30年末には改修工事にかかる見込みです。
------	----------------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 6	市民生活推進課	総務調整グループ

事務事業名	野津庁舎整備事業（用地購入、基本設計、実施設計）			新規・継続	新規		
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VI-18-41	まちづくりの計画的推進	ソフト・ハード	ハード		
	関連施策名 (施策コード)	III-8-16	公共施設の耐震化・防災施設整備				
事業内容 (経緯)	老朽化し危険性の高い野津庁舎旧館を取り壊し、新館を中心にコンパクトに整備を行います。30年度には工事に着手し31年度の完成を目指し、本年度は建設予定地の用地購入、基本設計を行い、新館の耐震補強実施設計に着手しました。						
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移 H26 H27 H28	H29 実績値	H31 計画値
	①	建設予定地の用地取得進捗率	購入手続きの進捗状況	%	- - -	100	-
	②	基本設計の進捗率	基本設計の進捗状況	%	- - -	100	-
	③	実施設計の進捗率	実施設計の進捗状況	%	- - -	9.2	-
	④						
事業対象	用地の購入・基本設計・実施設計		成果	28年度から繰り越した基本構想は6月に完了しました。平成30年3月に基本設計を完了し、新館の耐震補強実施設計に移りました。実施設計については3月補正で予算化し、3月中に入札を行いました。			
成果指標	指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移 H26 H27 H28	H29 実績値	H31 計画値
	事業の進捗率	行動指標進捗状況の平均値		%	- - -	69.7	-

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	37,363				17,300	14,580	5,483

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	老朽化した野津庁舎旧館については、早期に取り壊す必要があります。新館も築27年が経過し、傷みも目立ち始めています。早期の対処が必要です。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	分庁方式を継続し、野津地域の行政拠点として整備することは、市民サービスを維持するためにも有効です。増築部分については、多くの市民が集い、憩い、賑わいの場として活用できるよう整備します。	
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がある C : 効率的に効果が出ていない	新館は建築から27年経過していますが、軸体的にはまだまだ活用できるものです。耐震補強や設備の改修を行い寿命を延ばしたり、エコエネルギー設備の導入や維持管理コストの削減を図り、資源の有効活用に努めます。
事業の問題・課題	コンパクトな庁舎をめざし、新館に行政業務の執務室をおき、旧館を取り壊して整備する増築部分について市民が活用できるスペースを整備します。新館の大規模改修と旧館跡地に増築する部分の実施設計業務については30年度に繰り越しとなります。		
前年度の改善案	-		
具体的な改善案	-		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	野津庁舎整備は、今後の野津地域の行政だけでなく、市街地の活性化や有事の際の防災・活動拠点として整備を進めていく必要があります。
------	------------------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 7	市民生活推進課	市民生活
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名	葬斎場運営（委託）業務						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名（施策コード）	VII-18-43	快適な住環境の確保					
総合計画との関連	関連施策名（施策コード）							
基本項目	事業内容（経緯）	野津地域（旧野津町）の葬斎場については、旧大野郡5ヶ町村（旧三重町・旧野津町・旧犬飼町・旧清川村・旧千歳村）で運営する葬斎場（平成27年2月新葬斎場完成）を利用しています。旧大野郡は、合併して豊後大野市になったため、豊後大野市に葬斎場（豊後大野市三重葬斎場）の運営事務を委託しています。						
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値
	①	葬斎場の使用回数	臼杵市民（野津地域）の使用回数	回	105	131	135	148
	②	運営費総額	運営委託費総額	千円	3,847	3,391	3,546	4,174
	③							
	④							
	事業対象	市民	成果	火葬炉の増設により、圏域外（臼杵葬斎場等）で火葬することがなくなりました。また、火葬予約システム導入等で利用者の利便性は向上しています。				
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値
		1回あたりの費用	委託費用÷使用回数	千円/回	37	26	26	28
								42

コスト事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	4,232					1,664	2,568

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	野津地域の火葬については、合併前の旧大野郡5ヶ町村で運営する火葬場で行っており、合併後の臼杵地域の臼杵葬斎場で火葬する場合、費用負担が膨大になります。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない	高齢化が進み、高齢者が多くなっていることから、今後、葬斎場の利用回数は増加すると思われます。	
	効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地があややある C：効率的に効果が出ていない	新火葬場の完成により、火葬炉の数が増えたので、圏域外（臼杵葬斎場等）で火葬することがなくなり、火葬料補填金の支出が減少しました。しかし、運営委託費については当初想定した火葬件数が増加したため、職員を増員したことや2年間の保証期間が終了したことにより運営委託費が増加します。
事業の問題・課題	新葬斎場の完成により、火葬炉が増えたことで圏域外で火葬することがなくなりました。また、火葬予約システム導入など、利用者の利便性は高まりましたが、高度な施設の管理委託等のため維持管理費が高くなり、運営委託料が高くなっています。		
前年度の改善案	委託事業費は、前年度の決算状況及び利用件数により決定しますが、今後も打合せ協議を行なながら決算状況の内容を豊後大野市から説明を受けます。今後10年間に係る三重葬斎場の維持管理表を提出してもらいましたので、その表をもとに節約できる費用等について協議をしていきます。		
具体的な改善案	新葬斎場完成後の保証期間が終了したこと、また運転管理業務委託料については当初想定した火葬件数が増加したことから職員を増員したため運営委託料が高になりました。今後、決算状況の内容を豊後大野市から説明を受けて、節約できる費用等について協議をしていく必要があります。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	三重葬斎場は、平成27年3月から稼動するようになりました。今後10年間に係る必要維持管理費（積算）を参考にしながら、長期的ビジョンにより運転管理業務などについて効率的に運営されているか動向を注視していく必要があります。
------	---------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 8	市民生活推進課	総務調整

事務事業名	吉四六の里観光協会補助事業						新規・継続	継続	
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	IV-9-17	観光資源の活用・創出による地域活性化						ソフト・ハード
	関連施策名(施策コード)	V-15-34	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承						ソフト
基本項目	事業内容(経緯)	吉四六の里観光協会が事業主体となり、野津地域の観光資源を開発し、観光事業及び産業の振興を行い、地域の活性化を図ります。(主催事業：吉四六ランド桜のライトアップ、普現寺もみじライトアップ、吉四六さん着ぐるみ貸出等)							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		① イベントへの協力回数	主催及び後援回数	回	27	27	28	28	30
		② 吉四六さん着ぐるみ貸出回数	貸出回数	件	26	17	18	20	30
		③ ライトアップイベントの開催数	回数	件	2	2	2	2	2
		④							
	事業対象	来場者	成果	桜のライトアップでは、桜の開花状況にあわせて期間を延長し実施しました。今後も事業経費を考慮した上で、事業内容や事業周知方法などを見直します。また、事業を持続させるための収益を産み出す工夫の検討も行います。					
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		来場者数	ライトアップイベント 来場者数(桜及びもみじライト アップの来場者合計数)	人	2,800	2,600	2,700	2,700	3,500

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	1,803						1,803

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	吉四六さんの里、桜や紅葉の名所として野津地域の知名度も定着しており、商店街を含む野津地域の活性化を促進するため、観光協会の行うイベント事業は必要だと考えます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか B	A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	ライトアップイベントなど毎年同程度の来場者で推移しています。野津地域のPRにつながっています。天候(イベント日と桜の開花、もみじの紅葉の時期がずれた)のこともあり見物客が想定よりも少ない結果となりました。
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか B	A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	野津地域に特化したイベントや観光地を掲載したパンフレットがないことや観光ガイドがないことなど、野津地域のPRや観光客を受け入れるために取り組むべき課題があります。
事業の問題・課題	事務局を市に置いてあり行政主導の感が強く、また協会会員の年齢層が高いことなどから、会員の積極的な行動・協力が得られない状況です。貴重な観光素材を観光客にPRする方法に乏しく、また、地域の活性化に結び付けることが難しい状況にあり課題となっています。		
前年度の改善案	地元の特性を活かして野津地域の活性化を図るために、より多くの団体への協会加入を促し、協会内の連携を深め、貴重な観光素材を活かすことができるよう各種イベントなどに取り組みます。まずは、吉四六さんの家が野津地域の観光情報の発信地となるよう努めます。また、運営主体である「NSKおへまハウス」による野津の観光情報の発信のあり方を検討します。		
具体的な改善案	協会員の高齢化が進み積極的な行動や協力が得られにくくなる中、地域に根差す活動を行う他団体と協働しながら観光資源のPR、地域イベントの開催を行い地域の活性化を行うことが必要です。 また、臼杵市観光情報協会との連携を密にしてお互いの情報の交換をすることも必要です。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	野津地域には多くの地域資源やイベントなどに積極的に参加する民間団体などがあります。来年度開催される国民文化祭において、下藤キリシタン墓地が注目を浴びる機会となります。それら資源や団体を繋ぐ中心的な役割を吉四六の里観光協会が担う必要があります。
------	------------------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 9	農林振興課	農業振興グループ
新規・継続	継続	

事務事業名	活力あふれる園芸産地整備事業（野菜対策）						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成					
	関連施策名 (施策コード)							
事業内容 (経緯)	農村における高齢化や後継者不足により園芸品目の生産面積が減少していく中、農業の担い手である認定農業者の規模拡大や新規就農者確保のため、本事業を活用しハウス施設、省力化機械、集出荷施設等の整備を行います。							
行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
①	補助対象農家数	受益を受ける農家戸数	戸	109	99	42	133	38
②	補助受益面積	受益を受ける栽培面積	ha	54	54	11	26	27
③								
④								
事業対象	農業者	成果	栽培施設・機械の導入による栽培面積の拡大および栽培体制の効率化、共同選果施設による出荷体制整備により、安定した農家経営につながりました。					
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	推進品目の栽培面積	ピーマン、ニラ、いちご、甘藷、甘ネギの栽培面積	ha	70	78	87	92	96

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	58,870			34,405			24,465

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	野菜の栽培面積を拡大するためにはハード面の整備が必要です。農業の担い手である認定農業者、新規認定就農者を対象としており、今後の臼杵市農業の振興に効果があります。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない		
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	主要な戦略品目であるピーマン、かんしょ等を中心に面積拡大を進めていますが、ニラ、白ネギ、ベビーリーフなどその他の品目についても拡大、新規就農者獲得の要望があり、振興を広げていく必要があります。		
前年度の改善案	今後の面積拡大用地の確保に向け、耕作放棄地や引退する農業者の圃場の活用及び効率的な情報収集体制の整備が必要です。		
具体的な改善案	農業委員会などとも協力し、有用な圃場の確保と品目の集約を進め、新規就農者や規模拡大を望む生産者が入りやすい体制を構築していきます。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	本事業の対象品目（ピーマン、にら、仔牛等）は、県の戦略品目であり、また、市の振興品目でもあり、面積の拡大や機械導入による省力化などにより経営の安定が図られます。
------	---------------	----	--

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 10	農林振興課	有機農業推進室
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名		ほんまもんの里うすき農業推進協議会補助金						新規・継続	継続		
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	IV-11-23	「有機の里うすき」の実現							
		関連施策名 (施策コード)	I-1-1	安心安全で健康な「食」の推進							
基本項目	事業内容 (経緯)	臼杵市の持つ農業生産基盤をより活用した農産物を生産し、安全で安心な「ほんまもんの里・うすき」ブランド確立を目指すため、農家、消費者、大分県農協、大分県、臼杵市、臼杵市議会、農業委員会、環境保全型農林振興公社、野津土地改良区分が連携し、「環境保全型農業の推進」「競争力のある産地づくり」「地産地消の推進」を柱として協議会で活動を行っています。 「旬食フェスタ」、「Usuki Farmer's Market ひゃくすた」の開催やCATVの「ほんまもんごはん」の放送、市報の有機農業連載特集（3ヶ月間）、3歳6ヶ月児健診でのほんまもん農産物の試食・試供品配布により広く周知を行いました。また、幼稚園や乳幼児期学級の親子、食フェス等でのイベントで「100年ごはん」の上映会を行いました。									
	行動指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値	
		① ほんまもん農産物認証シール配布数		金、緑の認証シール配布数		枚	H26 114,761	H27 134,034	H28 133,368	156,404	160,000
		② 給食地元野菜使用率		野菜の全体重量における臼杵産の割合		%	40	38	38	41	50
		③ オーナー農園参加者		玉ねぎ、甘藷、馬鈴薯のオーナー口数		口	394	402	357	265	400
		④ 子どもの農業体験数		植付体験、収穫体験等の農業体験回数		回	12	16	21	37	20
	事業対象	生産者・消費者（市民）			成果	子どもの収穫（植付）体験の充実や子育て世代へのPRにより「ほんまもん農産物」の認知度が向上しています。3歳6ヶ月児健診時でのアンケート結果では、平成27年度52%、平成28年度72%、平成29年度70%と上昇し、高い認知度を保つことができました。					
	成果指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値	
		ほんまもん農産物生産者数		ほんまもん農産物生産者数		人	32	36	40	44	40

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	10,655						10,655

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	「ほんまもんの里・うすき」ブランド化を推進するためには、PR促進と農産物の安定供給が必要です。
	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		旬食フェスタや市内イベントでのPRや全国での映画「100年ごはん」上映会等により、ほんまもん農産物等の有機農業の取組みの認知度が広がっています。
A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか		他課主催の市内で開催される各種イベント等と連携し、ほんまもん農産物販売の出店により、多くの来場者に効果的にPRを行いました。
A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		

事業の問題・課題	生産者と販路の拡大は必要と考えます。		
前年度の改善案	大分市の百貨店での本格販売開始・研修生の増（平成28年度1期生2名・平成29年度2期生1名・合計3名） 有機農業の研修生が中心となり、毎月開催する朝市「ひゃくすた」を企画実施し、有機野菜のPR及び販売拡大を図りました。		
具体的な改善案	地域おこし協力隊員3名が新規就農に向け有機農業研修を実践しています。（平成31年4月2名・平成32年4月1名就農予定）また、大分市の百貨店での「ほんまもん農産物」の販売を、週2回搬入から週3回搬入と拡大し、安定供給することが出来ました。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	「ほんまもんの里・うすき」ブランド確立に向け、生産者数の増加や販路の拡大、更にはPRを今後も積極的に行う必要があります。
------	---------------	----	--

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 11	農林振興課	農業振興
新規・継続	継続	

事務事業名		中山間地域等直接支払交付金						新規・継続	継続		
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	N-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成						ソフト・ハード	ソフト
基本項目	事業内容 (経緯)	中山間地域の農地の保全と水源涵養を目的として、集落での農地の管理・維持を行う計画を基に協定を締結し、面積と活動内容に応じた交付金を交付します。27年度から、4期対策として31年度まで実施し、本年度が3年目です。									
	行動指標	指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	①	協定集落数	協定を締結する集落数		箇所	14	15	15	15	15	
	②										
	③										
	④										
	事業対象	集落協定参加者		成果	集落協定に基づく活動により、中山間地域の農用地と関連施設（農道・水路）が適切に管理されました。						
	成果指標	指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
		協定農用地面積	傾斜度 水田1/100以上 畠 8°C以上	ha	94	96	102	100	100		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	15,639		7,282	3,557			4,800

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	交付金の活用により、協定農用地のみならず、農道・水路の管理や景観作物の植付がなされ、環境保全にもつながっている。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	耕作放棄地の発生予防にもつながっており、集落の活性化にも寄与しています。
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	中山間地域の農用地を集落で適切に管理が行われることにより、集落の活性化と自然災害の発生予防も期待できます。	
	事業の問題・課題	一層の高齢化により、リーダーと担い手が不足しています。	

前年度の改善案	
具体的な改善案	集落内での話し合いを充実させ、集落内のリーダー養成を行います。

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	中山間地域の条件不利地域における農地や農業用施設が交付金を活用して維持管理できており、地域の活性化や環境保全が図られている。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 12	農林振興課	有機農業推進室
新規・継続	農林振興課	有機農業推進室
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名	土づくりセンター管理・運営事業						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-11-23	「有機の里うすき」の実現					
	関連施策名 (施策コード)	I-1-1	安心安全で健康な「食」の推進					
基本項目	事業内容 (経緯)	持続可能な農業振興、おいしくて安全・安心な農産物の提供のためにはミネラル豊富な良質の土が必要であるため、より自然に近い堆肥を人工的に生産し、安全・安心で健全な農業振興を図ります。						
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値
	①	うすき夢堆肥製造量	うすき夢堆肥製造量	t	1,723	1,425	1,672	1,683
	②							
	③							
	④							
	事業対象	臼杵市民	成果	夢堆肥購入希望の方に対し、お待ちいただくことなく安定した製造販売ができました。				
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H31 計画値
		うすき夢堆肥販売量	うすき夢堆肥販売量	t	1,523	1,560	1,822	1,655
								1,800

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	49,073				11,000	10,722	27,351

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	安全で安心な農作物を供給するためには、堆肥を利用した有機農業が求められ、地産・地消で臼杵市の農業の活性化を図る必要があります。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	事業実施により、有機栽培された農作物の地域ブランド化を図り、農業所得の向上効果が予測されます。	
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	地域資源を有効活用した有機堆肥の供給により地域の活性化が図られます。 今後コストは増やさずに堆肥の製造、販売量を計画値まで増やせれば効率性は今よりも改善されます。
事業の問題・課題	高い品質での安定的な堆肥の製造をするために安定的な原材料の仕入れをするために新規事業所を増やす。 大型機械の耐用年数が来ており、機械の改修工事の経費が多大になります。		
前年度の改善案	製造方法の工夫により生産量と品質の両立が可能になってきました。 原材料を安定的に仕入れるために、新たな契約先を模索します。		
具体的な改善案	大型機械の改修事業計画を作成します。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	有機堆肥の生産・販売は農業の基盤となる土づくりには必須のものであり、「夢堆肥」を使った、安全・安心な農産物の生産は農業振興に不可欠です。
------	------------------------	----	--

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 13	農林振興課	農林基盤整備室
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名		地域農業水利施設ストックマネジメント事業							新規・継続	継続	
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	V-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成							ソフト・ハード	
	関連施策名 (施策コード)									ハード	
事業内容 (経緯)	パイプラインの老朽化により農業用水の安定供給に問題が生じ、施設の管理についても多大な労力を費やしているため、計画的な水利施設の整備を行い、維持管理費の節減と地域農業の生産性を向上させます。										
基本項目	行動指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		① 実施事業費		用水路・頭首工等の修繕事業費		千円	-	10,010	14,009	3,001	20,000
		②									
		③									
		④									
	成果指標	事業対象		農業従事者		成果	老朽化した水利施設の整備により、農業用水の安定供給につながります。				
		指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		事業進捗率		単年度実施類型事業費÷全体事業費		%	-	13	30	34	84

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	4,172		2,100		750	150	1,172

評価の視点	評価	判断基準		理由											
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か			農業に必要な水利施設の整備であり、必要不可欠です。										
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない												
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか			老朽化した水利施設の整備であり、実施すれば用水の安定供給に効果を発揮します。											
	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない													
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか			計画的な水利施設の整備を行うことで、維持管理費の節減と地域農業の生産性を向上させます。											
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない													
事業の問題・課題	予算に対して要望箇所が多く、対応しきれない面があります。														
前年度の改善案	緊急度や効果により優先順位を決めて計画的に実施しています。														
具体的な改善案	緊急度や効果により優先順位を決めて計画的に実施しています。														

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	水利施設の維持管理費の節減と地域農業の生産性の向上のため必要です。
------	------------------------	----	-----------------------------------

日杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 14	農林振興課	農振グループ

事務事業名	地域農業経営サポート機構育成事業						新規・継続	継続			
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成						ソフト・ハード	ソフト	
	関連施策名 (施策コード)										
基本項目	事業内容 (経緯)	平成28年度より担い手不在集落の解消として取り組むために、市内の農業生産法人等により構成し活動している「うすき農尊協同組合」を中心に「地域農業経営サポート機構」を設立し、事務所運営及び担い手不在集落に対する支援活動費に対して平成30年度まで補助を行うものです。									
	行動指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値	
		① 作業受託面積		地域農業経営サポート機構が主体となって作業受託（経営も含む）する農地		ha	—	—	0.0	10	25
		②									
		③									
		④									
	事業対象	地域農業経営サポート機構		成果	受託作業については、組織内各団体の相互協力により、少しずつ受託作業等の実績を増やすことが出来ました。						
	成果指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値	
		担い手不在集落の数		担い手のいる集落/全体集落(233集落)		%	—	—	34	46	50

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	8,293				4,000		4,293

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		農村の豊かな環境を保持していくためにも、担い手不在集落の解消は進めていかなければならない重要な課題であるので、必要性は高いと考えます。
有効性	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない		
	効率性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		認知度が思うほど上がりず、いまひとつの結果しか出せない状況です。
事業の問題・課題	B	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
	前年度の改善案	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		限られた運営費の執行に際し、十分な協議と計画性が必要かと思われます。
	B	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
具体的な改善案	月一度の定例会に、中部振興局・市職員が参加して現状の事業執行状況などに意見を出し、補助金最終年の平成30年度には、自主財源の確保が出来る事業運営が必要かと思われます。			

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	農家の高齢化に伴い、担い手不在集落の増加が危惧される中で、集落支援や担い手支援を行う組織として支援が必要です。
------	------------------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 15	農林振興課	農業振興グループ

事務事業名	多面的機能支払交付金事業					新規・継続 ソフト・ハード	継続 ソフト	
	主要施策名 (施策コード)	IV-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成					
総合計画 との関連	関連施策名 (施策コード)	II-5-11	地域内交流・地域間連携					
事業 内容 (経緯)	農業・農村が有する多面的機能（国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等）の維持・発揮を図るために、地域の共同活動（水路・農道の維持管理等）に係る支援を行い、担い手農家への農地集積という構造改革の後押しを図るもので。大きくは、「農地維持支払交付金」（農道の草刈・水路の泥上げ等）と「資源向上支払交付金」（水路・農道・ため池の軽微な補修等）の2つから構成されます。今年度は、この事業に取組む活動組織が2組織増え、52組織で地域の農地維持活動に取組みました。また、関心のある4地区へ、事業の内容について説明を行いました。							
基本 項目	行動 指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値
	①	活動組織への説明会開催回数	実績報告や活動内容についての説明会開催回数	回	4	4	4	4
	②	事業の周知	未取組地区への事業内容等の周知	回	3	1	1	3
	③							
	④							
事業 対象	市内各地域の農用地・農業用施設		成果	既に取組んでいる組織は、活動を計画どおり行い、地域の農地維持・景観形成が図られました。また、新たに2組織が活動を始めました。				
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値	
	協定農用地面積	交付金の算定根拠となる農用地の面積	ha	658	669	709	704	700

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	39,994		12,362	6,181			21,451

評価 の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	各地区住民(主に農業者)がまとまって、地区の農用地や関連施設を維持・保全管理する活動に役立っています。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	計画に基づいた適切な活動（農用地及び農業用関連施設の維持管理）が実施されています。	
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	市の負担は全体事業額の1／4で、農用地や農業用施設の維持・管理・補修が計画的に行われており、多面的機能の維持保全ができます。	

事業の問題・課題	各地区の担い手を継続的に確保できなければ、農村環境の維持・保全が徐々に困難になっていきます。		
前年度の改善案	この事業を推進する上で最も課題になるのは、当該地区にこの事務処理を担える人材がいるかどうかです。この課題を解決するために青年就農給付金や中山間地域直接支払交付金といった他事業との連携を図り、各地区で事務処理を行うことのできる人材（担い手）の発掘を行いました。		
具体的な改善案	農村環境の維持・保全のために多くの地区がこの事業に取り組めるように、説明会の実施等の働きかけをしました。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	農業者を中心に地区住民がまとまって、農地や農道・水路等の施設の維持保全管理に取組むことで農村環境の保全に役立っているので、引き続き推進していきます。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 16	農林振興課	農業振興グループ

事務事業名	臼杵市茶産地育成事業						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	IV-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成					
	関連施策名(施策コード)							
事業内容(経緯)	(株)伊藤園との産地育成協定のドリンク茶専用茶園80haを目指し、ドリンク茶専用工場の整備に対し補助を行いました。ドリンク茶以外についても茶園面積の拡大に補助を行いました。1番茶の霜害対策として防霜設備整備等に補助を行いました。							
行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	① 防霜施設整備面積の増加60ha(1期事業分)	茶園の霜害の解消面積	ha	26	48	58	63	60
	② 遊休農地(畑)の未然防止99ha	茶園面積(遊休農地の未然防止面積分)	ha	81	82	82	83	90
	③ 省力機械導入	乗用型茶園管理機(累計)	台	7	7			
	④							
事業対象	農業者	成果	ドリンク専用工場の稼働により、加工委託に伴う市外への運搬等経費が削減され、安全で効率的な製品出荷が出来るようになります。茶園での霜害抑制が期待され、作業の省力化による経営安定につながります。					
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	産地化の確立105ha	茶園面積(累計茶園面積)	ha	86	88	88	88	105

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	297,898		252,353	25,883			19,662

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	防霜対策、茶の新植、茶加工工場の建設は、安定した経営及び茶園管理の省力化に必要な事業です。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
		遅霜対策は、収益の7割程度が見込まれる1番茶の荒茶単価維持のためには有効で、茶園管理の省力化が図られます。また、茶加工工場の建設はこれまで茶葉を地域外の加工場まで輸送していたコストの削減と輸送時間による劣化を防げ、加工茶の品質向上(販売益向上)が図れます。	
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
		茶園経営の初期投資が続くため、経営の圧迫は考えられるが、公的資金の活用や補助事業の活用および関係機関による経営指導により、効率的な事業になるよう努めます。	
事業の問題・課題	平成26年度からの農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業での防霜対策は3カ年の継続事業となっており、今年度で同事業での対策は終了となります。今後、新たに茶園拡大した場合は個別に対策事業が必要となる可能性があります。		
前年度の改善案	29年度以降の防霜対策については29年度初旬に計画策定の見込みです。		
具体的な改善案	平成30年度以降の防霜対策については今後の茶園拡大計画を逐次把握し、必要に応じた対策事業を実施します。		

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	茶園面積105haの達成に向け、新植による面積拡大と併せて、防霜設備の導入により品質向上を図り、経営の安定を目指します。また、遊休農地の未然防止にも繋がります。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 17	農林振興課	農林基盤整備室(林業)
新規・継続	農林振興課	農林基盤整備室(林業)
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名	有害鳥獣捕獲事業								
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VII-20-50	多様で健全な森林への誘導						
	関連施策名 (施策コード)								
基本項目	事業内容 (経緯)	有害鳥獣（イノシシ、シカ、サル、小動物等）の被害に対して、猟友会へ捕獲依頼、追払い活動などの事業を行い、農産物等の被害軽減を図りました。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		① 有害鳥獣捕獲による被害の防止	有害鳥獣捕獲事業における実績数	頭	2,977	3,542	4,418	4,807	4,600
		② 烏獣侵入防護柵設置による被害の減少	防護柵設置地区数	件	32	27	9	27	10
		③ 電気柵設置による被害減少	電気柵補助件数	件	45	46	35	16	40
		④							
	事業対象	農林業者	成果	有害鳥獣捕獲については、前年比の捕獲数が伸びており被害の減少が図られています。侵入防護柵は、27地区で設置を行いました。電気柵設置についても16件の補助を行い被害減少が図られています。					
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		農林作物の被害金額	H31計画値は臼杵市鳥獣被害防止計画の被害軽減目標を記載。	千円	6,448	9,560	4,978	4,626	5,400

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	34,401			23,975			10,426

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	農林業生産者の経営基盤を構築し、活力ある農林業を行うため捕獲と防除（有害鳥獣捕獲、侵入防護柵設置、電気柵設置）を継続的に行う必要があります。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	捕獲、侵入防護柵、電気柵を組み合わせることにより鳥獣被害から田・畑・山林を守り経営の健全化、所得の向上等が図られ効果が得られます。	
	効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	有害鳥獣捕獲事業、電気柵事業（県1/3、市1/3）、侵入防護柵事業（国100%）についてはの交付金事業等で行っており被害減少にともなう農林業生産性の向上が図られており効果はあります。
事業の問題・課題	捕獲事業については、猟友会会員の高齢化による減少及び銃保持者が減少が課題です。 侵入防護柵については地区の高齢化が進んでおり設置および維持管理が課題です。		
前年度の改善案	捕獲事業について狩猟免許講習会の費用を補助し人員の確保を行っていくことが必要です。 防護柵設置事業についてコストダウンを図り、要望地区を1件でも多くできるようにします。		
具体的な改善案	捕獲事業について狩猟免許講習会の費用を補助し人員の確保を行う。 侵入防護柵について地区全体での設置および定期的な維持管理計画を立てる。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	猟友会の協力により、有害鳥獣捕獲による被害減少の効果は出ており、また、侵入防止策、電気柵の設置により獣害対策には有効です。
------	---------------	----	---

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 18	農林振興課	農林基盤整備室
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名		林道補修資材費（生コンクリート）支給事業						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	V-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成						
	関連施策名 (施策コード)								
事業内容 (経緯)	市内の各地区より林道の補修、整備の要望があった場合、公共工事として施工することが困難な事業については、それぞれの地区より原材料(生コンクリート等)の支給申請書を提出してもらい、各地区で補修、整備を行っていただいている。								
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	①	申請地区に対する支給地区数	申請地区に対して実際に支給を行った地区	地区	40	43	41	37	40
	②								
	③								
	④								
事業対象	林道利用者		成果	公共工事の及ばない道路の補修、整備を行うことができました。					
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	申請地区に対する支給率	申請地区に対して実際に支給を行った割合	%	100	100	100	100	-	

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	7,342						7,342

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	公共工事の及ばない林道の補修、整備が原材料の支給により実施できるので必要な事業と思われます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない		
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	地域の後継者不足や高齢化により、原材料支給での林道を整備することが困難になると思われます。		
前年度の改善案	特にありません。		
具体的な改善案	今後、林道補修の事業化の検討を行い、地域施工と市事業とで補修を継続していきます。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	林業の舗装を地元施工により実施することで、通行者の安心・安全を確保でき、今後も必要な事業です。
------	---------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 19	農林振興課	農林基盤整備室（林業）

事務事業名	森林整備事業			新規・継続	継続			
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VII-20-50	多様で健全な森林への誘導					
	関連施策名 (施策コード)	VII-20-49	CO <sub>2</sub> 削減に向けたまちづくりの推進					
事業内容 (経緯)	森林・林業の再生に向け、平成29年度に「臼杵市森林整備計画」を樹立させた。この計画を臼杵市の森林整備のマスタープランと位置付、森林の経営者による40年間の長期計画及び5年ごとの実施計画を盛り込んだ「森林経営計画」の作成が必要となりました。しかしながら、本市での経営計画達成率は、以前低く経営計画作成推進は急務であります。また、市・議会・自治会・森林所有者と取り組んでいます水源涵養の維持・増進を図る施策については、今後も継続して取り組んでいきます。 「100年の森林づくり」を実施するための、臼杵市森林整備計画を樹立しています。また、木質資源の価値及び林業全般の収益向上に向け、仮設カスケードセンターによる、実証試験の結果報告書を作成しました。							
行動基本項目	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移	H29 実績値	H31 計画値		
	① 森林経営計画の推進	臼杵市森林整備計画に基づく森林経営者への経営計画作成推進面積	ha	H26 5,967	H27 6,526	H28 6,726	6,741	18,981
	② 臼杵市有林の整備	臼杵市森林整備計画及び森林経営計画に基づく市有林の整備面積	ha	50	57	45	22	30
	③							
	④							
事業対象	森林経営者	成果	森林経営計画の作成推進において、民間の協力により200haの合意形成を得られました。しかし現在の森林整備を維持するにあたり、作業班員等の確保が重要であり、今後の課題となっています。					
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移	H29 実績値	H31 計画値		
	森林経営計画の作成推進	森林経営計画認定面積	ha	H26 5,967	H27 6,526	H28 6,726	6,741	18,981

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	借用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	14,167			3,525		1,222	9,420

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	森林経営計画の作成がない森林においては、補助事業の対象とならず森林整備の遅れにつながると考えます。早急な推進を実施し森林経営計画の作成が森林整備の加速化につながります。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	森林経営計画の作成により長期的な整備計画が可能となります。また、モデル地域を設定することにより臼杵市の水源が保たれます。
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	森林の所有者情報や境界の確定が遅れているため情報の収集や調査方法の検討が急務です。	
事業の問題・課題	扱い手不足や素材生産業者の人員確保に早急に努める必要があります。		
前年度の改善案	森林のマスタープラン(臼杵市森林整備計画)をデーター及び現況を基に実現可能な計画書の作成を行いました。この計画書に基づき年間の森林整備面積や搬出量の目安を行い効率的な森林整備につなげていきたいです。継続して、収入の見える化に取り組み、森林経営者に対して森林整備の意識増進を図りたいと思います。		
具体的な改善案	臼杵市森林整備計画を基に、年間の森林整備面積や搬出量の目安を行い効率的な森林整備につなげていきたいです。継続して、未利用材等の有効活用に取り組み、山主への還元及び森林経営者の所得向上に向けて、今後も森林整備の意識増進を進めていきたいと思います。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	近年、分収造林の期限完了日を迎える森林が多く、皆伐を避けるため、長伐期施業の方法で100年の森へと誘導し、自然景観形成をなすよう整備に取り組む必要があります。
------	------------------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 20	農林振興課	農林基盤整備室
新規・継続	継続	

事務事業名	竹林再生事業							新規・継続	継続		
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VII-20-50	多様で健全な森林への誘導							ソフト・ハード	ソフト
	関連施策名 (施策コード)										
事業内容 (経緯)	臼杵市には広大な竹林がありますが、現在その大部分が荒廃竹林として人の手のつかない状況となっています。一度荒廃した竹林を整備することは難しい上に他の土地に侵食し竹林の規模は大きくなり、状況は悪化していくばかりです。このような状況を改善するために、補助事業を活用し整備を行い筍採取等竹林を有効利用できる状態にします。 旧臼杵地区に加えて、野津地区でも整備を行いました。荒廃した竹林を間伐しました。また、今年度、伐採後の竹のチップ化にも取り組み、より筍を取りやすい竹林に変えることができました。										
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値		
	①	竹林再生面積	1年間の施業面積	ha	3	2	2	3	3		
	②										
	③										
	④										
	事業対象	荒廃竹林	成果	市内8ヵ所 2.93haの荒廃竹林の整備により、竹林の保全につながっています。							
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値		
		竹林再生面積	1年間の施業面積	ha	3	2	2	3	3		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	4,655				2,849		1,806

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	荒廃竹林整備に対して注目や問い合わせが増えています。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	竹林整備を行い、林内環境が改善され筍の収穫がしやすくなり、所有者の竹林を維持に対するモチベーションを高めることができます。	
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	申請書類の作成及び現地確認など、申請者に負担になる事務等がありますので、申請者の負担軽減を図っていきたいです。

事業の問題・課題	竹林間伐を行った後の廃材処理
前年度の改善案	申請書類の作成及び現地確認など、負担になる事務等を森林組合と連携するなどの検討をして、申請者の負担軽減を図りました。
具体的な改善案	竹粉碎機利用の促進を行っていきたいと思います。

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	今後も継続して荒廃竹林を整備することで、筍生産だけでなく、野生動物の棲み処を少なくすることができ、農林産物の獣害減少にも効果があります。
------	---------------	----	--

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 21	農林振興課	農業振興グループ

事務事業名	経営所得安定対策等（直接支払）推進事業						新規・継続	継続		
総合計画との関連	主要施策名（施策コード）	IV-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成						ソフト・ハード	ソフト
事業内容（経緯）	交付金を活用した転作推進のため、市内の水田営農者の作付計画を収集管理し、直接支払となる経営所得安定対策等事業の交付金申請手続きに関する事務補助などを行う、臼杵市農業再生協議会を運営するための事業です。									
行動指標										
	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値		
	① 地域農業再生協議会における規定の会合実施回数	協議会の幹事会・総会等の実施回数	回	4	4	4	4	4		
	② 「営農計画書」の配布・回収数	協議会把握の水田営農者数（水田〇データ除く）	件	2,570	2,562	2,557	2,532	1,500		
	③ 活用推進説明会等開催数	説明会等の開催数	回	2	2	2	1	1		
	④ 事業交付金活用件数	交付金の申請種類ごと累計	数	895	858	888	770	250		
事業対象	水田・畑作（戦略作物）農家	成果	加工用米や飼料用米、麦・大豆などの戦略作物等による転作推進を目的に絞った交付金等の最大限活用を引き続き推進してきたところ、交付総額が前年比で16,624万円の増となり、市内農家所得の維持・向上に貢献できたと考えています。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値		
	経営所得安定対策等交付金額	経営所得安定対策等交付金額	千円	122,470	122,946	125,747	142,371	100,000		

コスト事業費+人件費	フルコスト（千円）	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	13,991	内訳	6,648			7,343

評価の視点	評価	判断基準	理由		
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	経営所得安定対策関連交付金の有効活用のため、地域農業再生協議会を運営し、特徴ある産地づくりや農業者の所得向上を目指すことは、地域内農業者のニーズに十分合致していると考えます。		
有効性	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない			
	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	国の交付金制度を推進し、需要に則した作付け促進をすることは、米穀類の価格安定及び地域内農家の所得増加に効果があると見込んでいます。			
効率性	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない			
	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか	地域農業再生協議会の運営事務も多様化しつつある中で、専門的な知識・技術を持つ人的資源が恒常的に不足し、効率的な運営や農業者のサポートの面で、改善の余地が残ります。			
事業の問題・課題	牛産調整（減反）政策とともに主食用米の交付金も廃止となり、交付金対象件数や交付金額は減少を免れない見込みとなっています。そのような中でも引き続き実施される転作推進関連の交付金については、農業再生協議会へ活用の期待が課せられている状況であるため、地域内農家の所得向上に繋がるような国庫交付金の有効活用を図っていく必要があります。				
前年度の改善案	臼杵市全体での農業推進施策を踏まえた転作推進にも繋がる交付金活用の取組について、減少見込みとなる交付金枠を最大限に有効利用しながら、地域内農業の継続的な発展や農家所得の向上に資する施策を長期的視点で計画していくよう、農業公社などの専門知識・技術のある組織等と連携し、研修など人事研修・交流などを行うなどの専門知識や経験を備えた事務局体制づくりが必要と考えます。				
具体的な改善案	経験と知識の豊富な定常業務を補助する非常勤等公務員を継続配置が出来るようになったことにより、安定した体制の維持が確保できるようになってきたと思います。引き続き専門知識・技術のある組織などと交流を図り、専門知識等の交流を図る機械を設けることが、事務局体制の強化に繋がるのでは思います。				

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	生産調整（減反）政策は廃止となるが、転作関連の交付金は続きます。農家所得の向上のため引き続き事業推進を行う必要があります。
------	---------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 22	農林振興課	農業振興グループ
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名	農業後継者就農促進事業（アグリ起業学校）						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名（施策コード）	IV-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成					
	関連施策名（施策コード）	IV-10-21	雇用の確保・就労支援					
事業内容（経緯）	臼杵市アグリ起業学校の農業機械を含む施設整備及び就農コーチを配属することにより、農業研修生がより実践的な研修を受講できるよう受け入れ体制を整え、研修生が独立就農できるよう就農支援を行いました。							
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値 H31 計画値
	①	研修生受入組数	アグリ起業学校に入校した研修生組数	組	3	2	3	5 3
	②							
	③							
	④							
事業対象	就農研修生		成果	研修生が農業機械などの動作研修も行うことができ、スムーズに独立就農できる体制が整いました。				
成果指標	指標名	説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値 H31 計画値
	研修後の就農組数	研修終了後、臼杵市で就農した研修生の組数（毎年）		組	-	3	2	3 3

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	6,408				887		5,521

評価の視点	評価	判断基準		理由			
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		就農者の確保は、定住促進のみならず地域の担い手確保対策として重要です。			
有効性	A	A：適応している B：一部適応していない C：適応していない					
	A	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		農業担い手の確保とあわせて、臼杵市内への定住を促進するため移住担当課との連携により、定住が促進されています。			
効率性	A	A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない					
	A	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか		定住者の職業（農業）もあわせて斡旋できます。			
事業の問題・課題	市外からの就農者の居住地及び就農地の確保並びに専任研修コーチの確保が課題です。						
前年度の改善案	県、JAと連携し就農コーチの確保を行なうことが急務です。また、居住地確保の対策としては移住・定住担当課と連携をとり、空き家バンク事業の充実を図ります。就農地の確保については農業委員会、JA等関係機関と連携し、就農可能な農地リストの作成が必要です。						
具体的な改善案	引き続き、県、JAと連携し就農コーチの確保を行なうことが急務です。また、居住地確保の対策としては移住・定住担当課と連携をとり、空き家バンク事業の充実を図ります。就農地の確保については農業委員会、JA等関係機関と連携し、就農可能な農地リストの作成が必要です。また、上記の問題を解決するために関連機関で運営会議を開催し改善に向けて協議しています。						

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する（重点継続）	理由	農家の高齢化が進む中、新規就農希望者への農業支援策として重要な事業であり、市農業の担い手として育成支援が必要です。
------	------------------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 23	農林振興課	農林基盤整備室

事務事業名	農村振興総合整備事業						新規・継続	継続		
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成						ソフト・ハード	ハード
	関連施策名 (施策コード)									
事業内容(経緯)	臼杵市では、後継者不足や高齢化により農業及び農村を取り巻く状況が厳しくなっており、耕作放棄地や遊休農地の増加に伴い、農業のもつ公益機能や集落機能の低下が進行しています。農村振興総合整備事業により、生産基盤や農村生活環境の整備を総合的に行い、農作業の省力化や合理化を進めています。									
	藤河内、江無田、井村前田地区において農道整備を行い、江無田地区において農業用排水施設整備を行い、立目・六反田地区において圃場整備を行い、広原、搔懐、中対田、栗手原地区において、暗渠排水整備を行っています。									
	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29	H31		
	① 事業費負担額	負担金額	千円	19,162	37,207	14,250	18,000	-		
	②									
	③									
	④									
	農業従事者	成果	農村地域の公益機能・集落機能が保たれ、農作業の省力化や合理化が図られます。							
	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29	H31		
	成果指標	工事の進捗率	過年度事業費/全体事業費	%	74	93	96	100	-	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	20,342				7,200		13,142

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	農村地域の公益機能・集落機能を保つためには、農村地域の一体的な整備を図ることが必要不可欠です。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	農村地域の公益機能・集落機能を保つための工事であり、実施すれば直ちに効果が得られます。	
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	整備を行うことにより、維持管理の軽減と農業生産の向上が図れるため、効率性は高いです。
事業の問題・課題	総事業費に対し、国の年度毎の予算措置が少ないため、事業完了が遅れています。		
前年度の改善案	事業主体の大分県に対し、予算の確保と早期完成の要望を行っていきます。		
具体的な改善案	なし		

課長評価	事業目的達成による完了・完了予定(完了)	理由	事業完了したことにより、農村地域の公益機能・集落機能が保たれ、農作業の省力化や合理化が図られました。
------	----------------------	----	--

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 24	農林振興課	有機農業推進室
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名		臼杵市環境保全型農林振興公社運営支援補助事業						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-11-23	「有機の里うすき」の実現						
	関連施策名 (施策コード)	I-1-1	安心安全で健康な「食」の推進						
基本項目	事業内容 (経緯)	公益社団法人臼杵市環境保全型農林振興公社の取り組む各種事業は、環境保全、土づくり、有機農業を目指す農家を支援することを目的に実施するものです。よって農林公社が事業を円滑に実施できるよう、補助金を交付します。							
	行動指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値
		① 有機堆肥等散布		有機堆肥等散布		ha	98	105	81
		② うすき夢堆肥散布		うすき夢堆肥散布		ha	37	41	45
		③ 稲わら等梱包		稲わら等梱包		ha	15	15	11
		④ 田畠耕起		田畠耕起		ha	16	13	5
	事業対象	市内農家		成果	オペレーターや事務職員を適正に配置することができ、農林公社の各種事業が円滑に実施することができました。				
	成果指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値
		当期収支決算額		当期収支決算額		円	344,196	534,903	730,684
							▲ 23,390		500,000

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	18,575						18,575

評価の視点	評価	判断基準		理由	
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		農家の高齢化等により、堆肥の運搬散布や田畠耕起などの各種事業は年々必要性が増しています。	
		A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない			
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		必要なオペレーターの数を確保することで、時間に余裕ができ安全面にも十分に配慮し、農家の希望どおりの日程で事故無く作業ができます。		
	A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない				
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		臼杵市内の農地を熟知し、農協と共同出資している農林公社が各種事業を行うことでより効率的な作業ができます。		
	A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない				
事業の問題・課題	農家の減少などにより農作業受託等の収入が減少傾向にあります。				
前年度の改善案	市報等により広報を行い、農作業受託等の収入を維持することが必要です。				
具体的な改善案	市報等により広報を行い、農作業受託等の収入を維持することが必要です。				

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	農家の高齢化に伴う耕作放棄地や、堆肥の運搬散布などの作業委託の要望は続くため、今後も引き続き農林公社を支援する必要があります。
------	---------------	----	---

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 25	農林振興課	農林基盤整備室
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名		農業基盤整備促進事業（八里合地区）							新規・継続	継続
総合計画との関連		主要施策名 (施策コード)	V-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成						
関連施策名 (施策コード)										
基本項目	事業内容 (経緯)	既設用水路は約4km上流の頭首工から取水しており、施設の老朽化が著しく維持管理が困難なため、河川よりポンプアップで取水を行い、用水路のバイオライン化を行っています。								
	行動指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値
		① 実施事業費				千円	H26	H27	H28	-
		②								
		③								
		④								
	事業対象	農業従事者		成果	計画箇所が完了し、来年度の農繁期より稼働予定です。					
	成果指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移			H29 実績値
		事業進捗率		実施事業費÷全体事業費 (140,000千円)		%	H26	H27	H28	H31 計画値

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	52,544		27,500	7,500	10,300	1,250	5,994

評価の視点	評価	判断基準		理由											
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か			受益者に偏りはありますが、中山間地域での耕作地の維持保全が必要です。										
		A	A：適応している B：一部適応していない C：適応していない												
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか			農業生産の安定のための工事であり、実施すれば直ちに効果を得られます。											
	A	A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない													
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか			施設整備を行うことで、農業生産性の向上と維持管理の軽減が図れるため効率性は高いです。											
	A	A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない													
事業の問題・課題	特にありません。														
前年度の改善案	特にありません。														
具体的な改善案															

課長評価	事業目的達成による完了・完了予定（完了）	理由	事業完了したことにより、維持管理労力が低減され、安定した用水の確保が可能になりました。
------	----------------------	----	---

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 26	農林振興課	農林基盤整備室
新規・継続	継続	

事務事業名	農業水利施設保全合理化事業（石場ダム）							新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成						
	関連施策名 (施策コード)								
事業内容 (経緯)	石場ダムの用水施設・管理省力化施設は、昭和46年に建設され、これまで約45年が経過し、施設の老朽化により補修や維持管理に多くの労力を要している。農業水利施設保全合理化事業により維持管理費の節減及び施設の機能回復を行い、農業生産の維持及び農業経営の安定を図ります。 石場ダムの余水吐において、老朽化した減勢池の改修工事をH28年、H29年の2カ年に分割して工事を行っています。								
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		① 事業費負担額	国55%、県29.3%、市15.7%	千円	-	9,369	31,227	7,422	8,431
		②							
		③							
	④								
事業対象	農業従事者	成果	老朽化した用水施設の整備により、維持管理費の軽減及び施設の機能回復により農業生産の維持及び農業経営の安定を図ります。						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	工事の進捗率	当該年度事業費/全体事業費	%	-	14	60	71	100	

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	9,764				4,600	2,363	2,801

評価の視点	評価	判断基準	理由	
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		
有効性	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	農業に必要な用水施設の整備であり、必要不可欠です。	
	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	老朽化した用水施設の整備であり、実施すれば農業生産の維持及び農業経営の安定に効果を発揮します。		
	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか	計画的に用水施設の整備を行うことで、維持管理費の軽減と農業経営を安定させます。		
	B	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	総事業費に対し、国の年度毎の予算措置が少ないため、事業完了が遅れることが考えられます。			
前年度の改善案	なし			
具体的な改善案	国に対して、予算確保の要望を行って行きます。			

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	老朽化した石場ダムの用水施設の計画的な整備により、維持管理費の節減と地域農業の生産性を向上させます。
------	---------------	----	--

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 27	農林振興課	農林基盤整備室
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名		農業用施設改良資材費（生コンクリート）支給事業						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	V-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成						
	関連施策名 (施策コード)								
事業内容 (経緯)	市内の各地区より農道の補修、整備の要望があった場合、公共工事として施工することが困難な事業については、それぞれの地区より原材料(生コンクリート等)の支給申請書を提出してもらい、各地区で補修、整備を行っていただいている。								
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	①	申請地区に対する支給地区数	申請地区に対して実際に支給を行った地区	地区	102	104	100	106	110
	②								
	③								
	④								
事業対象	農道利用者		成果	公共工事の及ばない道路の補修、整備を行うことができました。					
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値	
	申請地区に対する支給率	申請地区に対して実際に支給を行った割合	%	100	100	100	100	-	

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	24,716						24,716

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	公共工事の及ばない農道の補修、整備が原材料の支給により実施できるので必要な事業と思われます。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない		
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	農村地域の後継者不足や高齢化により、原材料支給での農業用施設を整備することが困難になると思われます。		
前年度の改善案	特にありません。		
具体的な改善案	今後、農業用施設補修の事業化の検討を行います。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	農道の舗装を地元施工により実施することで、通行者の安心・安全を確保でき、今後も必要な事業です。
------	---------------	----	---

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 28	農林振興課	農林基盤整備室
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名	農業用施設整備工事						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	V-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成					
	関連施策名 (施策コード)							
事業内容 (経緯)	農業用施設（農道・水路・ため池等）の整備、修繕等を地元要望により実施します。							
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値
	①	工事件数	整備・修繕等の工事件数	件	24	18	26	10
	②							
	③							
	④							
事業対象	農業従事者		成果	整備工事等により機能改善され、農業生産の安定・拡大につながります。				
成果指標	指標名		説明・算式・引用	単位	実績の推移			H31 計画値
	実施率		工事実施箇所÷当該年度要望箇所（補修要望があり市が工事する必要がある箇所）	%	86	77	69	45
								100

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	10,342						10,342

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	農業に必要な水利施設の整備であり、必要不可欠です。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない		
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	予算に対して要望が多いため、実施率が100%を達成できません。		
前年度の改善案	必要性や優先性を見極め、計画的に実施します。		
具体的な改善案	必要性や優先性を見極めたうえでコストダウンに努め、要望箇所を1件でも多く実施できるようにします。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	農業用施設の整備は、農業生産の安定や生産性の向上に欠かせないものであり、引き続き取り組んでいきたいと考えています。
------	---------------	----	---

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 29	農林振興課	有機農業推進室
新規・継続	新規	
ソフト・ハード	ソフト	

事務事業名		地域おこし協力隊						新規・継続	新規
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-11-23	'有機の里うすき'の実現						
	関連施策名 (施策コード)	I-1-1	安心安全で健康な「食」の推進						
基本項目	事業内容 (経緯)	化学肥料や化学合成農薬を使わずに栽培した農産物を「ほんまもん農産物」として市長が認証しています。生産者の高齢化が進む中で「ほんまもん農産物」の生産量や販路を拡大するには若手の新規就農が求められています。実証圃場での周年栽培や各種イベントでの「ほんまもん農産物」を販売し販路拡大に努めました。							
	行動指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値
		① 協力隊認定数		協力隊認定数（累計）		人	-	2	3
		②							
		③							
		④							
	事業対象	有機農業の生産者		成果	地域おこし協力隊が中心となり臼杵石仏公園で毎月第一日曜日に「ほんまもん農産物」を中心とした朝市を開催しPRに繋がりました。				
	成果指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H31 計画値
		ほんまもん農産物生産者数		ほんまもん農産物生産者数		人	-	44	80

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	12,983						12,983

評価の視点	評価	判断基準		理由				
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		「ほんまもん農産物」の安定供給と販路拡大のPR促進が必要です。				
	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない						
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		協力隊による「ほんまもん農産物」のPR活動や実践研修により、有機農業の基盤強化、担い手の確保に繋がる				
	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない						
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		協力隊として3年間の研修を行うことで、有機農業の担い手として就農直後から、独立自営の経営が行える。				
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない						
事業の問題・課題	ほんまもん農産物の生産者は65歳以上の高齢者が多く、新規就農者は地域おこし協力隊が市外から就農するが地元(若年層)の就農者が増えないことが大きな課題である。							
前年度の改善案								
具体的な改善案	今後も募集を募りながら、既存の農業者が独立自営できる営農形態を確立する為に、「ほんまもん農産物」のブランド化、安定した販路を確保するための「有機JAS」取得に対し支援していきます。							

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	臼杵市では「有機の里うすき」をかけ取組んでおり、有機で作った「ほんまもん農産物」の生産拡大及び消費拡大(PR)ををする上で協力隊の力が必要である。
------	------------------------	----	---

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 30	農林振興課	農振グループ

事務事業名	集落営農構造改革対策事業						新規・継続	単年		
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	N-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成						ソフト・ハード	ハード
	関連施策名 (施策コード)									
基本項目	事業内容 (経緯)	集落営農法人等が経営の効率化や規模拡大に向けた取り組みを行うために必要な機械・設備の導入に対し、補助するものです。								
	行動指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値
		①	コンバイン利用実施面積	機械利用面積（コンバイン）	ha	—	—	—	17	29
		②	乗用型防除機利用実施面積	機械利用面積（乗用型防除機）	ha	—	—	—	56	83
		③								
		④								
	事業対象	集落営農法人		成果	大型機械（コンバイン、乗用型防除機）の導入により、作業の効率化が進み、経営規模の拡大に繋がりました。					
	成果指標	指標名		説明・算式・引用		単位	実績の推移		H29 実績値	H31 計画値
		経営面積の拡大		関係法人の経営面積		%	—	—	—	56

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	6,133				3,892		2,241

評価の視点	評価	判断基準	理由		
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	耕作放棄地が増加する中、集落営農法人等が規模拡大することで農地の維持が図られます。		
		A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない			
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	A : 期待したとおりの効果がある B : 期待したほどの効果が見られない C : 効果が少ない	大規模な法人が安定した経営を行い、目標面積の83haを達成することにより、安心して農地を任せることができます。		
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか	A : 効率的に効果が出ている B : 改善の余地がややある C : 効率的に効果が出ていない	大型機械等の導入により、作業の効率化が図られます。		
事業の問題・課題	機械の大型化で作業効率は改善されていますが、農地の集約化が今後の課題です。				
前年度の改善案					
具体的な改善案	作業効率を上げるために、集落単位での農地集積が行えるよう地域との協議が必要と考えます。				

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	集落営農法人等が大型機械を導入することで、作業の効率化が進み規模拡大が出来ます。結果的に耕作放棄地の増加に歯止めをかけることが出来ます。
------	---------------	----	--

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 31	農林振興課	農業振興グループ

事務事業名		集落営農等担い手に関する件（青年就農給付金事業）						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-11-22	農林業の経営基盤強化と担い手育成						ソフト・ハード
	関連施策名 (施策コード)	IV-10-21	雇用の確保・就労支援						ソフト
基本項目	事業内容 (経緯)	農村地域が抱える「人」と「農地」の問題解決に向けて、また地域の担い手となる新規就農者の確保と営農定着を図るために、就農から経営が安定するまでの間（独立自営就農から最長5年間）給付金を支給することにより支援を行うものです。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	①	新規就農者確保の取組み	新規就農相談会の開催（出展）回数	回	4	6	13	16	12
	②								
	③								
	④								
	事業対象	個人農家 (就農時に45歳未満の自営農業者)	成果	資金の支給により、新規自営就農者の生活及び経営安定を図ることにより、就農者の定着と産地の維持ができます。					
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
		新規就農者数 (自営農業者)	企業雇用や親元就農ではない新規自営農業者数	人	11	14	12	18	14

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	54,903			53,146			1,757

評価の視点	評価	判断基準	理由	
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	給付金制度により、就農者を確保し定着させることができました。	
	A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない		
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	技術や資金面から発生する新規就農者の経営（離農）リスクを抑えることができました。	
	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
	効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか	法令の改正により所得制限に関する要件が変更され、経営向上への意欲を新規就農者に持たせることができました。	
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	給付決定の要件として、対象者が「耕作地域における今後農業の担い手」として位置づけられる必要があり、地域として新規就農者を受け入れ支援していくという雰囲気の醸成や、良好な関係の構築が継続して必要です。また、就農者の農地の確保及び住宅の確保が今後の大きな課題です。			
前年度の改善案	就農後も継続的に指導のできる地元生産者（先輩農家）とのマッチングを重視し、「産地全体」で新規就農者を支援していく体制を強化します。また、農業分野に限定せず、移住の先輩など他分野の人材や移住担当課とも連携した支援を行っていきます。			
具体的な改善案	地元先進農家の下で研修するファーマーズスクールの制度も確立されつつあり、今後は新規就農者の農地及び住宅の確保のため、農地情報及び空き家情報の収集を行います。			

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	農家の高齢化が進む中、新規就農者の獲得は急務であり、若手の新規就農者の初期の経営安定策として有効であり、引き続き取り組みを行います。
------	---------------	----	--

## 臼杵市 事務事業評価シート

(平成 29 年度)

番号	課名	グループ名
E - 32	農林振興課	農林基盤整備室
新規・継続	継続	
ソフト・ハード	ハード	

事務事業名		道路補修工事(野津地域)						新規・継続	継続
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	VII-21-53	交通安全対策の推進						
	関連施策名 (施策コード)								
事業内容 (経緯)	野津地域内の市道の舗装補修、側溝補修及び小規模改良工事、その他維持補修工事を地区からの要望や突発的な破損等に対し、随時施工しています。								
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	①	工事件数	補修・改良等の工事件数	件数	21	23	21	15	20
	②								
	③								
	④								
事業対象	市道利用者		成果	道路補修工事により、より安全な通行ができ、道路の排水処理が改善されます。					
成果指標	指標名		説明・算式・引用	単位	実績の推移			H29 実績値	H31 計画値
	実施率		工事実施箇所÷当該年度要望箇所（実際に補修要望があつたものに対する割合）	%	74	72	41	62	100

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	17,377						17,377

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	市民生活に密着した市道の補修であり、必要不可欠です。
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	予算に対して要望箇所が多く、対応しきれない面があります。		
前年度の改善案	コスト削減に努め、優先順位を決めて計画的に実施します。		
具体的な改善案	緊急度や効果により優先順位を決めて計画的に実施します。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	通行車の安心・安全を確保するため、今後も必要な事業です。
------	------------------------	----	------------------------------